

第56回夏季大学「気候変動とその影響」開講のお知らせ

教育と普及委員会

主催：(公社) 日本気象学会

後援 (予定)：気象庁, 日本地学教育学会, (一財) 気象業務支援センター, (一社) 日本気象予報士会

日本気象学会教育と普及委員会は、最新の気象学の知識の普及を目的として、学生・大学院生、小・中・高等学校の教諭、気象予報士及び気象に興味を持っている一般の方々を対象に、毎年夏休みの時期にやや専門性の高い講座である「夏季大学」を開講しています。

今回の夏季大学のテーマは「気候変動とその影響」です。真鍋淑郎博士のノーベル物理学賞受賞や、昨年から今年にかけて IPCC 第6次評価報告書が公表されたことが報道されるなど、社会における気候変動への関心はますます高まっているように思われます。ところで、気候変動の予測が実際にどのように行われているのか、ご存じでしょうか。どうして予測が複数の国や機関で行われるのでしょうか。また、気候変動によってどのような変化が私たちの身の回りで起こりえるのでしょうか。今回の夏季大学では、私たちのこれからの生活にも大に関わる気候変動問題に焦点を当て、予測に使われる気候モデルの発展の歴史と、最新の気候予測、気候変動に伴う様々な影響について、専門家の皆さまに講義を行っていただく企画としました。進行する地球温暖化に対して備える機会となれば幸いです。

○日程、講義題目(仮題)、講師

2022年8月6日(土) 10:00~16:00, 7日(日) 10:00~16:00

「日本の気候変動2020と IPCC 第6次評価報告書」

笹野大輔 (気象庁)

「気候モデルの発展の歴史」

佐藤正樹 (東京大学大気海洋研究所)

「地球の温度上昇予測に大きなばらつきがあるのはなぜか?—答えは、雲—」

川合秀明 (気象研究所)

「気象・気候のデジタルツイン? : NICAM による高解像度シミュレーション」

中野満寿男 (海洋研究開発機構)

「北極圏の温暖化による遠隔気候影響」

森 正人 (九州大学応用力学研究所)

「洪水災害に対する気候変動の影響と適応」

佐山敬洋 (京都大学防災研究所)

「ヒートアイランドと温暖化：ヒートアイランド対策と暑さ対策は違うのか?」

日下博幸 (筑波大学計算科学研究センター)

「世界の穀物生産における気候変動影響と適応」

飯泉仁之直 (農研機構)

※講義題目は変更となる可能性があります。

○講義会場

今回の講義はオンライン開催とします。講義の日時等詳細については、「教育と普及委員会」夏季大学ウェブサイト (https://www.metsoc.jp/about/educational_activities/summer_school) で公開しています。

○募集対象人数

200名

○受講料

2000円 (消費税含む)

○講義資料

事前に講義レジュメを共有しますので、受講される方は取得をお願いします。また、オンライン開催後に、講義資料を参加者限定で共有し、講義レジュメを「教育と普及委員会」のウェブサイトに掲載する予定です。同サイトには、過去の資料も公開されていますので、ご覧下さい。

○お問い合わせ先

気象庁内 日本気象学会事務局

Tel : 03-6453-0611, Fax : 03-6453-0612

E-mail : msj-ed_2022@metsoc.or.jp